

H28 東大見学会 企業・大学訪問 感想文

①ディレクトフォース

1 日目に到着してからすぐに、笹川平和財団様によるディレクトフォースが行われました。素晴らしい会場で、素晴らしい方々のお話を聞かせていただいたり、そのような方々と将来についてのお話をさせていただいたりして、活発な意見交換ができたことはとてもいい経験になりました。

まず最初に、全体での講演では、IEA（国際エネルギー機関）前事務局長である田中伸長様のお話を聞かせていただきました。主にエネルギー問題についてのお話でした。石油危機を機にアメリカのキッシンジャー米 국무長官が提唱し、安定したエネルギー需給構造を確立するためにつくられたのが IEA です。これからは、石油の半分が中東から出るようになるそうです。そのため、もしホルムズ海峡が閉鎖されるなどの事態が起きたときは、日本に石油危機のように大きな影響が及ぶかもしれないのです。日本のエネルギー問題の 1 つとして、原子力発電についてが挙げられます。私達が身をもって経験した、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故は人災だった、とおっしゃっていて驚きました。当時、福島第二原子力発電所や、女川原子力発電所では事故は起きませんでした。福島第一は甘かったのだということです。「人間がどこまで準備するか」ということが鍵になってくるのだと思いました。また、急成長している国として中国が挙げられますが、中国には原子力発電所が増えるそうです。もし中国で事故が起こってしまった場合、黄砂のように日本も影響を受けてしまうといます。私は、3. 1 1 の事故を幅広くシェアして次に繋げて行ければ良いのではないかと感じました。そして、日本は資源が少なく、島国であるという理由で他国と連携をとることが難しい国です。そのため原子力はどうしても必要になってきてしまいます。田中さんによると、徐々に再稼働を進めていくべきだということです。私もその点はしょうがないのではないかと感じました。この講演で、様々な問題（地球環境問題など）はエネルギー問題を考えながら考えていくことが必要だと学ぶことができました。

次にグループセッションに入り、移民・難民コミュニティーの社会統合・生活支援活動を担当している林茉里子様とお話させていただくことができました。林さんは、中学二年生でイギリスにホームステイした経験があるそうです。中学二年で英語に関しての不安は無かったのか質問してみたところ、英語に初めて触れたのは中学に入ってからで、ほとんど話すことができなかつたといいます。「でも人間って不思議なもので、だんだん慣れてくるのですよね。」とおっしゃっていたことをよく覚えています。私も、中学一年生のときにホームステイをした経験があるのですが、本当にその通りだと思います。林さんは、柔軟

に受け入れていく力が大切だとおっしゃっていました。難民問題についての話では、「なるほど。」と思うことがありました。それは、ドイツは難民の受け入れが積極的ですが、難民にはお金がなく、それほど遠くまで行けないので、ドイツまでたどり着けないということです。難民が多い国の周囲の協力が大切だといいます。また、このことをみんなに知ってもらい、「助け合う」ことが大切なのです。

次に、ブリヂストン欧州本社会長兼社長の藤村峯一様とお話させていただくことができました。藤村さんは、これからは転職が当たり前の時代になっていくとおっしゃっていました。そのため、「自分は〇〇の仕事ができます！」とアピールしていくことが大切だといいます。今からやるべきことは、外国の大学を志望するなら今から始めて、特に数学を大事にすることだそうです。大学で外国人と友達になるといいそうで、今から世界を考えて行動しなければならないのだな、と感じました。藤村さんは、上司が外国人だった頃があり、上司が外国人のときどのようなことが大切か、同じグループの友達が質問したところ、次のような言葉をいただきました。「上司が外国人だったら、コミュニケーションの問題になってくるので、積極的に話しかけることが大切！」なのだそうです。藤村さんと話をしている、自分が望んでいる・目指しているところへ、年齢を待たずに進むことが大事だとわかりました。

次に、海洋政策研究所/海洋研究調査部・海洋政策チーム 主任研究員の角田智彦様とお話させていただくことができました。事前のプリント配布で海洋研究をなさっている方かなと思っていたら、海洋「政策」を研究なさっている方でした。角田さんは、高校生のとき数学と物理が得意で、京都大学理学部に入られたそうです。見えない世界の話が苦手だったそうですが、身近の不思議に興味があったそうで、それらは社会との接点が大切だと思い、社会政策に繋げようとした、とおっしゃっていました。角田さんは、わかりやすく海の難しさのある例で例えてくださいました。それは、「山は1000メートル、2000メートル、3000メートル・・・、といったように人間が登ることが可能ですが、海は人間が何メートルも潜っていくことは難しいですね。それほど海は知ること、伝えることが難しいのです。」私はわかりやすい例えに深く頷きました。そして、海洋政策の肝は、知る・守る・利用する、の3つだといいます。角田さんが現在1番注目している海洋政策は「いかに人類共通財産を守っていくか？」ということだそうです。具体例として挙げたのは、公海（人類共通財産の1つ）をどのように守っていくのか、ということです。海に面している国では、領海の範囲が決まっています、その向こうには公海があります。しかし、ここで問題が発生します。公海には良い船でしか行くことができません。そのような船を所持していない発展途上国などは、どう感じているのでしょうか。当然なことに、先進国だけで魚や資源を手に入れることができることはおかしい、という不満が挙がっているそうです。現在はそのルールを新たに作り替えているところで、作っている途中だからこそそこに面白さを感じるのだといいます。話の流れが変わり、私は、汚染問題に関してのルールや制度がよく伝わっていないところがあると感じているのですが、ど

のような手段で人々に伝えていくことが大切なのでしょうか、と質問してみました。角田さんは、「課題」と「対策」をセットにして訴えかければいいのでは、と回答してくださいました。確かに、現状の課題がわからなければ対策する意欲も湧いてきませんし、対策方法がわからなければ対策のしようがない、と思いました。

最後に、(現)日本郵政スタッフ株式会社 経営アドバイザーの金子祥三様とお話させていただくことができました。金子さんは、これからの日本の課題について話してくださいました。日本は今後、少子高齢化が進みます。(元)サークルKサンクス 執行役員の金子さんは、売れる物の量がどんどん減っていくことが課題だとおっしゃっていました。そのような事態の対処法が、「グローバルの世界へ目を向ける」ことだそうです。海外へ売り出せばいいのです。日本の製品は良いこと、日本の技術は素晴らしいこと、日本の食品は美味しいこと・・・など伝えていくのも仕事です。しかし、結局はコミュニケーション能力が一番大事になっているそうです。人々が何が一番困っているのか、何を必要としているのか、といったように、情報収集するためにコミュニケーション能力が必要です。金子さんは、何度も「コミュニケーション能力」とおっしゃっていました。私は、話を聞いていてその他に「人脈」も必要だと感じました。

ディレクトフォースは今までに無い経験で、沢山のことを学ぶことができました。東京に行く前、事前に配布されていた資料を読んで、こんなに素晴らしい方々とお会いできて、さらに話しもできるなんて・・・と楽しみにしていました。想像以上に楽しかったこと、ためになったことは、みんなの右手の挙げ方で伝わったのではないかと思います。来年の後輩達にも、ぜひこの経験をしてもらいたいです。関係者の皆様、本当にありがとうございました。

↓国立がん研究センター



↓ディレクトフォース



